家庭数配付

札幌市立丘珠小学校　学校だより

ひらく

～みんなが笑顔になる学校～

https://www16.sapporo-c.ed.jp/okadama-e/　令和6年 3月25日 No.14

アナザースカイ（ありがとうございました）

校長　菅野　英人

３月 21 日の卒業式では、卒業生 50 名が丘珠小学校を巣立ちました。そして、本日、令和５年度の修了式を迎えました。今年度も、児童一人一人が私の言葉を真摯に受け止め、一生懸命努力してきました。その成長した姿に感動を覚え、喜びを感じることができました。そして児童一人一人に成果を伝えるため、本日、後期の通知表を発行いたしました。今年度の成長や伸び・可能性、そして、次年度からの新たなスタートへつながることを願い、各担任が心込めて作成いたしました。お子さんが持ち帰った通知表をもとに、一緒に今年度の学びを振り返っていただければ幸いです。

さて、４ 月にそれぞれの学年が始まった時と、現在の児童の顔はずいぶん違って見えます。本当にたくましい表情になったと思います。「凛々しい」と言った方がよいかも知れません。この１年間の成長が表れているのだと思います。

「やる気は眼に出る。人生は顔に出る。教養は言葉に出る。」

私の尊敬する先輩から聞いた言葉です。児童一人一人の眼には次年度を見据え、新たな一歩踏み出そうとする意気込みが感じられます。また、その表情には、毎日の学校生活で学んだことが確かに刻まれています。さらに、一人一人が語る言葉には、自信が感じられます。教養とは、学力や知識の量ではありません。教養とは、心の豊かさです。豊かな学びを通して得られた徳といってもよいかもしれません。卒業式や修了式での児童の姿を見て強く感じました。

北海道に、「襟裳岬」という歌（森進一が歌っていました。）で有名な所があります。北海道開拓時代、入植した人々は厳しい寒さと闘うため木はもちろん根まで掘り返して燃料に使いました。その結果、緑の大地は荒れ果て砂漠となってしまいました。これが「えりも砂漠」です。

しかし、「えりも砂漠」がもたらした被害は大地にとどまりませんでした。砂は海に流れ込み、魚は消え、昆布は育たなくなってしまいました。緑の大地を失っただけではなく、豊かな海も失ってしまったのです。それから、何十年も人々は砂漠と格闘し、緑の大地を取り戻そうと努力しました。現在は、黒松が生い茂り、豊かな海は多くの資源を供給してくれます。豊かな海を育むためには、海の力だけでは十分ではありません。緑の大地が必要なのです。

当時の襟裳岬の写真です。馬がラクダだったら、サハラ砂漠みたいですね。（北海道営林局 提供）

「豊かな海の上流には美しい緑の大地がある！」。つまり、「ステキな児童の背景には、家庭や地域の豊かな教育力がある！」ということです。私が覚えた感動も喜びもそれぞれの家庭や地域が育んだものであることをこの２年間で実感することができました。

私は、役職定年により今年度末をもって丘珠小学校を去ることになります。教員としての最後の２年間を丘珠小学校で過ごすことができ、とても幸せでした。丘珠小学校は、アナザースカイ（第２の故郷）として私の心の中でいつまでも生き続けると思います。いつも温かい目で見守っていただき、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。